

人文社会系 阿部幸大 先生

CEGLOC Academic Writing Support Desk

## アカデミックな価値を持つレポート・論文のつくりかた ワークショップ参加体験記



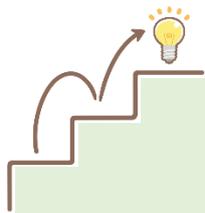
締切時間に追われて、とりあえず出したは良いものの、「なんだこのゴミレポートは…もう過ぎたことだし気にするのやめよう」と、臭いものに蓋をする…私たち学生にとって、それは常套手段であり宿命でもありました。しかし、そもそも私たちはなぜそれを「ゴミ」と認識してしまうのでしょうか。時間に押されて書ききれなかったから…?ただ文章が下手だから…?それだけではないはずです。言語化できない「ゴミ」の正体をはっきりさせるべく、私が向かったのは CEGLOC の一室でした。



参加した LA: MASU  
(人文学学位プログラム)

CEGLOC アカデミックライティングサポートデスク (AWSD) のイベントとして、7月24日に「アカデミックな価値をもつレポート・論文のつくりかた」と題したワークショップが開催されました。講師は日米文化史研究者である、人文社会系の阿部幸大先生によるもので、開催当日に『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』(光文社)を出版するなど、論文執筆に関する知識と技術にも近年注目が集まっています。今回は、レポート・論文を執筆する前の構想段階において、何を念頭に置きながら準備すれば良いのかをテーマに、質疑応答を交えつつ話が展開されていきました。

最初に先生が述べたのは、論文は、「アーギュメント」を持っていなければならないということです。ここでいうアーギュメントとは、論文の核となる主張内容を一文で表したもので、中でもその主張は論証が必要な主張でなければならないと定義されています。つまり、論証を要求しないような当たり前の主張ではなく、アーギュメントは飛躍を伴う主張である必要があり、その飛躍を埋めるために論証(=すなわち論文の中身)を書いていくという作業が求められるということなのでした。ワークショップでは、国民的アニメ・サザエさんを例に、即興でアーギュメントの生成を試みるパートもあり、目の前でどんどんと展開されていくサザエさんのエピソードと時代のうねりの結びつきには参加者一同、目が離せない様子で、私にとっては「これから、果たして自分にこれができるようになるのかな…」と頭を抱えた瞬間でもありました。



また、せっかく生成されるアーギュメントも、専門的な conversation (会話、いわば前提) に接続しなければ意味がないと先生は説きます。これはアーギュメントがアカデミックな価値を持つという意味において重要であり、すなわち先行研究を読むという作業に通じるポイントになるからです。学問の営みの一つに、前提とされてきた価値観を変化させることがあります。その当然だと思われていた「色」を塗り替えるためには、元々の「色」、つまりは先行研究のアーギュメントを見つけ出し、そこに介入し、自らのアーギュメントを打ち立てる必要があります。それこそがアカデミックな価値を持つアーギュメントとなるのです。

その後行われた質疑応答では、査読論文を執筆するにあたって直面する課題や、引用の程度についての疑問、論文雑誌の方向性についてなど多種多様な質問が出されました。その中で繰り返し言及されていたのは、問題意識の領域を広く取っておくということでした。「サザエさん」だけではなく、「障害学」や「戦後サブカルチャー」も一通り見ておくといったように、一見関連しないような「三次文献」を多く読むことがアーギュメントの生成につながると話されており、それは自専攻以外の授業が簡単に履修できる筑波大生にとっては親和性が高い方法のようにも感じました。

イベント当日は、幅広い分野から 100 名以上 (対面・オンライン) が参加するなど大盛況でしたが、個人的に印象深かったのは人文学のあり方について語られていた時です。私も所属する人文学では、「(評価する人にとって) 問題設定が巧みである」「議論が鋭い」のような主観的で属人的な「おもしろさ」が、研究の価値を決める基準として用いられることがあります。阿部先生はセンスや才能に左右される「おもしろさ」ではなく、アカデミックな会話に接続することによって、アカデミックな価値を生むという点に重きを置かれており、それはある意味で他学問にとっては当たり前のことかもしれませんが、これから人文学が世の中に受け入れられ、貢献していくためには欠かせない視点のように思います。アーギュメントの作り方、アカデミックな価値の加え方、そして今後の人文学のあり方に至るまで、あらゆる方法を言語化して明示する姿勢は痛快でありつつも、そのあり方に我が身が引き締まる、そんな思いを新たにしました。

**講師 阿部幸大 先生のご著書は、附属図書館でご利用頂けます！**

**図書館 Web サイトでチェック！**

阿部幸大著. まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書. 光文社, 2024.  
<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/opac/volume/4205657>



本イベントを主催した CEGLOC アカデミックライティングサポートデスク (AWS D) は、英語のエッセイ、レポート、学会のアブストラクトなどについて、チューターとの対話を通じて執筆支援する機関です。校正や添削が目的ではなく、英文の問題点や修正方法を共に考えることを重視しています。また、中央図書館 2 階にある学生サポートデスクでは、大学院生である LA が、ライティングを含め、学生生活にまつわる様々な個別相談を行っています。各デスクの詳細については、各 web サイトをご覧ください！



CEGLOC AWS D

<https://sites.google.com/view/oideyo-awsd>



附属図書館 学生サポートデスク

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/support/la>



2024/10/04 発行